

読み方

田中 愛子

三月ほど前のこと、神社で受けた厄除けの「おふだ」をゆうパックで送ろうと郵便局に出かけた。送り状の「品名」を見た若い局員が「中身なんですか」といぶかしんでいる。「おふだです」と答えると「ははあ」と納得した様子である。どうやら彼は、私が書いた「御札」を「おさつ」と読んだらしい。私を、振り込め詐欺に遭って孫のために大金を送金しようとする高齢者だと思ったのかもしれない。日本語には同じ漢字で読みも意味も違うことばがたくさんある。複数の読みについては高野公彦さんが『ことばの森林浴』で「人氣」（にんぎ、ひとけ）などに触れておられる。この「御札」もそうだし、「工夫」は「くふう」とも「こうふ」とも読める。

人の名前もそうである。

俺達はシラトリショウゴいつからかシロトリセイゴ、

白鳥省吾 狩野一男「コスモス」2022年12月号

勤め人であった頃、転勤先で、「白鳥さん」を当たり前

のように「しらとりさん」と呼んでいたら、他の職員の方から、彼はしろとりさんだと聞かされた。後日当人に非礼を詫びると、彼はいつものことですよと言いながら、「白」はまず「しろ」と読むのに名前になると「しら」と読まれるのが不思議だと言って笑った。そういえばコスモス奈良支部の米田郁夫、靖子ご夫妻や米田美紀子さんたちもそう。「こめだ」さんだ。つい「よねださん」と読んでしまいそうになる。私の知る限り、「よねだ」さんが多数だからだが、世の中には「まいた」さんもおられるらしい。けれど「米」は「こめ」と読むのが素直だ。人名も「こめだ」さんが一番に来てよさそうな気がする。

「東海林」も「しょうじ」、「とうかいりん」、とまったく読みの違う苗字である。苗字の読みは一筋縄ではいかない。このような時、私はまず、むずかしい特殊な読みで呼ぶことにしている。「とうかいりんさん」では漢字の見た目そのままなので「しょうじさん」と言ってみる。「しょうじ」と読めないのではと思われまいとする貧しい心がそうさせるのだ。

「しろ」、「こめ」がそれぞれの漢字のいちばん身近な読みであるなら人名も「しろとり」と「こめだ」が素直な読みだということになる。しかし「服部」と書いて「ふくべ」と読む人にまだお目にかかったことがない。私が知っている方々はみな「はっとり」さんである。